

蟹江町歴史民俗資料館

年報

第40冊

令和2年3月

蟹江町歴史民俗資料館

目次

I	歴史民俗資料館概要	1
1	沿革	1
2	施設概要	1
II	歴史民俗資料館事業概要	2
1	展示	2
	(1) 常設展示	2
	(2) 特別展示	3
	(3) 企画展示	9
2	教育普及	10
3	資料の収集・保管	31
	(1) 収集資料の特色	31
	(2) 収蔵資料の状況	31
4	調査・研究	34
5	情報提供	34
6	利用状況	36
III	文化財保護事業	44
1	文化財保護審議会	44
2	文化財等の指定・登録	44
3	文化財保護等事業費補助事業	44
4	文化財公開事業	50
5	文化財記録作成事業	52
6	文化財普及・啓発事業	52
7	須成祭ユネスコ無形文化遺産登録関連事業	53
IV	資料編	56

蟹江町歴史民俗資料館特別展

郷土の文化人のあしあと

林稼亨・丹羽賢龍・小酒井不木ら郷土の文化人の作品とともに、地域の人々との交流など、文化人の足跡を紹介します。



丹羽賢龍 掛軸 (金泉寺所蔵)

平成30年11月3日(土) ~ 12月2日(日)

午前9時~午後5時 月曜休館 入館無料

場所 蟹江町歴史民俗資料館 企画展示室

蟹江町城一丁目214番地 蟹江町産業文化会館内

TEL/FAX 0567-95-3812

主催 蟹江町教育委員会

ご あ い さ つ

蟹江町歴史民俗資料館では、平成6年度より、蟹江町にゆかりのある人物の作品等の収集事業を実施し、その作品や人物の業績紹介する展示を行ってまいりました。

平成27年度には、「郷土ゆかりの文化人」を開催いたしました。その際、来館者の方より、とりあげた文化人の方についての貴重な情報をいただくことができました。さらに、新たに郷土の文化人と蟹江町内の方との交流が分かる資料の発見もありました。

そこで今回、郷土の文化人と地域との関わりや、そこから垣間見えるその人柄に焦点をあて、林稼亭、丹羽賢龍、小酒井不木についての関連資料を展示紹介します。これによって、郷土の文化人をより身近に感じていただき、地域の歴史や文化への理解を深めていただくとともに、文化人たちの活躍の根底に郷土への想いや人々との交流があることを感じていただきたいと思います。

最後に、当館の活動にご理解をいただき資料や情報提供にご協力いただいた関係者の方々に対して、この場を借りて感謝申し上げます。

平成30年11月吉日

蟹江町歴史民俗資料館

林 稼亭 (はやしかてい)

1824-1905

<画家>

文政7年（1824）4月8日 蟹江新町に生まれる。

通称を源助といった。はじめ伊豆原麻谷の門に入り南宗の画法を学び、次いで小島老鉄・村瀬秋水の教えを受け、もっぱら王磨詰らの諸大家を模し、半生は西三河で遊歴した。

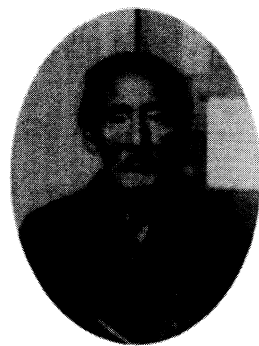
晩年やや不遇のこともあったが、作品への精進は怠らず、粥宇土京都大谷派本願寺本山への徒歩参詣の途に遊行絵巻物を完成するなど作画への意欲は衰えることはなかった。後年、大正天皇が皇太子であった頃、名古屋を中心とする大演習の際に総監として名古屋離宮にとどまられた際に伊藤次郎左右衛門が林稼亭筆「山水一幅」を献上されたところ、嘉納されたという。

明治38年（1905）10月26日逝去。西光寺に墓がある。

蟹江町に残る記録から ー晩年の交流についてー

江戸時代から明治時代にかけて活躍した稼亭について、現在その生前の姿を知るものはなく、作品や記録が残されているのみであるが、蟹江町内に残された記録から、不遇とされていた晩年にもさまざまな交流をもっていたことが判明した。蟹江町城（旧蟹江本町海門）の山口家には明治22年（1889）、23年、33年に描かれた山水画が所蔵されている。山口家はこの地域の総庄屋であり、当時の主であった山口一角は文芸家として多くの文化人と交流を持った人物で、郷土出身の稼亭とも交流があったのである。所蔵の山水画の箱書きには、稼亭が山口氏の為に描いたことが記され、特に、雪中山水には手紙も添えられており、山口氏への気遣いを読みとることができる。

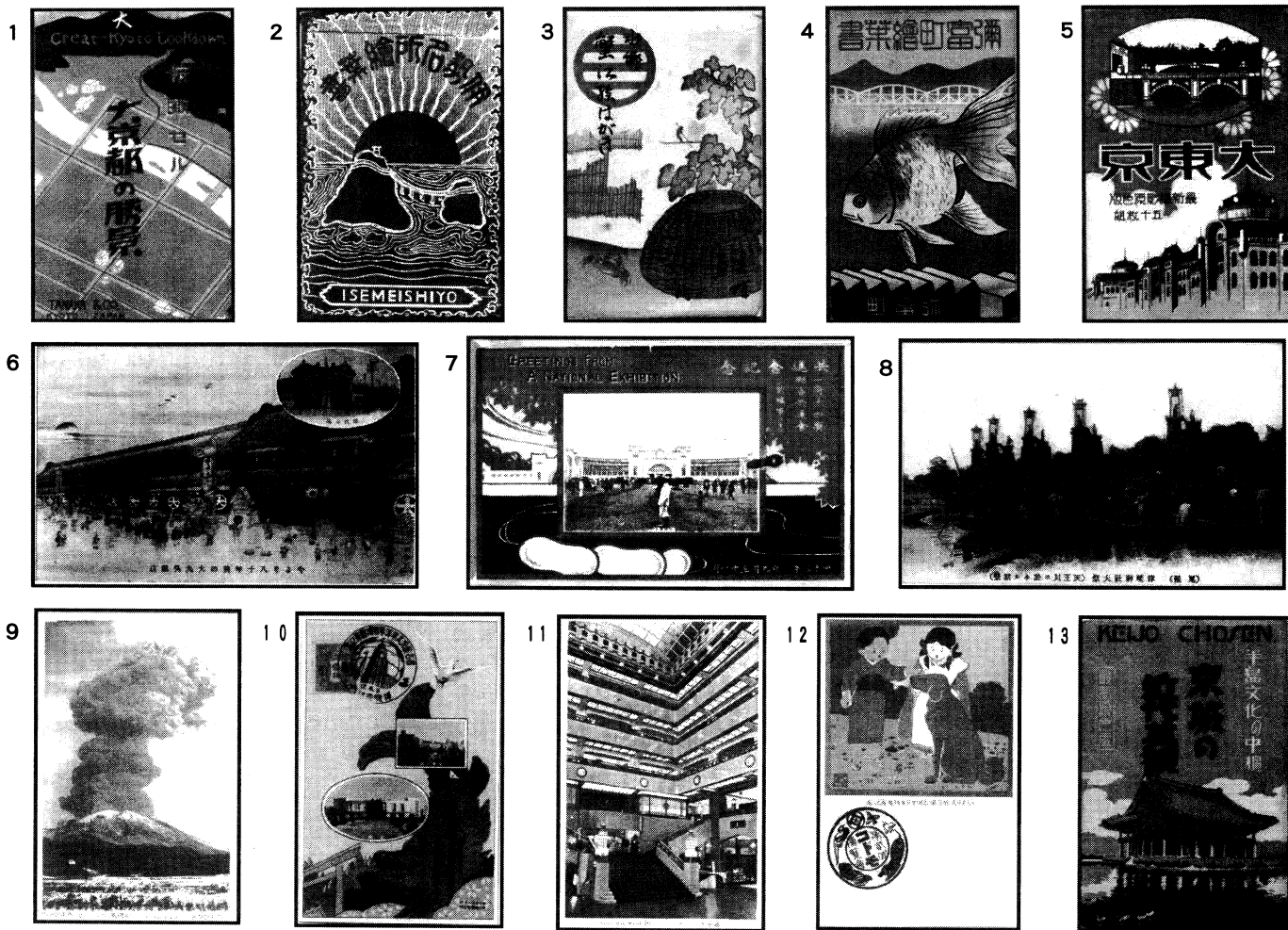
さらに、海部地域で活躍した人物をとりあげた昭和初期の『修身郷土資料』には、「晩年ニハ毎年必ラズ美濃ニ至リ恩師秋水画伯ノ墓ヲ弔ヒ又三河伊勢路ニ遊ビテ門弟ノ指導ヲスルヲ例トセリ」と紹介されている。晩年においても師を仰ぎつつ、弟子の指導に力を注いでいたのである。



林 稼亭
(愛知書家画家事典より)

蟹江町歴史民俗資料館特別展

蟹江絵はがきコレクション ～ 明治・大正・昭和をみる ～



平成31年1月26日(土) ～ 3月10日(日)

午前9時～午後5時 月曜および2月3日(日)休館 入館無料

場所 蟹江町歴史民俗資料館

蟹江町城一丁目214番地 蟹江町産業文化会館内

TEL/FAX 0567-95-3812

主催 蟹江町教育委員会

1 俯瞰セル大京都の勝景 包紙 (大正7～昭和8年頃) 2 伊勢名所絵葉書 包紙 (明治40～大正7年頃) 3 水郷蟹江絵はがき 包紙 (大正7～昭和8年頃) 4 弥富町絵葉書 包紙 (昭和8～20年頃) 5 大東京 包紙 (大正7～昭和8年頃) 6 今より八十年前の大丸呉服店 絵葉書 (明治43年) 7 共進会記念 一府十四県連合共進会 絵葉書 (明治43年) 8 津嶋神社大祭(天王川二於ケル朝祭) 絵葉書 (明治40～大正7年頃) 9 浅間山大噴火絵葉書 絵葉書 (明治44年) 10 名古屋汎太平洋平和博覧会 絵葉書 (昭和12年) 11 三越中央ホール 絵葉書 (明治40年～大正7年頃) 12 いたう呉服店第二回コドモ博覧会記念 絵葉書 (大正元年頃) 13 半島文化の中樞 京城の近代美観 包紙 (昭和8～20年頃)

開催にあたって

蟹江町歴史民俗資料館では、明治時代以降に貴族院議員や蟹江町長を輩出した蟹江家（旧鈴木家）より、平成25年に多数の資料の寄託を受けました。整理をすすめるなかで、明治から昭和にかけて発行された「絵葉書」が4,700枚以上あることが明らかになりました。

その中から、今回の特別展ではおよそ600枚の絵葉書を取り上げ、当時の生活や出来事のほか、災害や戦争、各地の観光地や町並みなどを紹介します。絵葉書は文書資料や文献と違い、絵や写真によって当時の様子をダイレクトに我々に伝えてくれる資料だといえます。さまざまな出来事をたどりながら、つかの間の時間旅行をお楽しみください。

最後に、今回の特別展開催にあたり、蟹江様には寄託資料の提供をはじめ、多大なるご理解とご協力をいただきました。ここに感謝を申し上げます。

平成31年1月吉日

蟹江町歴史民俗資料館

1 近代日本と民衆

明治・大正・昭和という時代は「近代」という一言でまとめられているものの、その間には多くの出来事があった。ここでは、絵葉書を通じてそれぞれの時代をみてみよう。

日本は明治時代以降、天皇を中心とする中央集権国家となった。天皇が即位をすれば国民が一丸となって祝い、崩御すれば皆一同に喪に服した。その様子は絵葉書からも窺い知ることができる。

また明治時代は、欧米列強に並ぶために近代化を図った時代でもあった。各地で開催される博覧会は交流の場であると同時に、殖産興業の成果を国内外へPRする場でもあった。

近代化の流れは、庶民の生活にも影響を及ぼした。明治末期から大正にかけての百貨店の誕生は、その代表例といえよう。新聞やラジオなどのマスメディアの登場により、民衆はより早く、より多く、より正確な情報を手に入れるようになった。

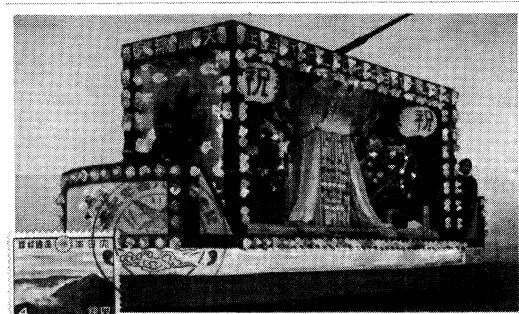
しかしながら、欧米列強の仲間入りを果たしても、民衆の全てが恩恵を受けるわけではない。昭和7年(1932)の東京においても、華やかなビル街の裏には庶民のささやかな生活があったのである。

御大典と花電車

御大典とは重大な儀式を示しており、天皇の即位礼のことである。都市部では奉祝のために花や電灯で飾った花電車が走り、日本中が祝賀ムードに包まれた。



御大典記念 奉祝 帝都の装飾 絵葉書 (大正4年)



紀元二千六百年記念 奉祝 祭典式場と花電車 絵葉書 (昭和15年)